

基本方針 4 大阪府立図書館は、大阪の歴史と知の蓄積を確実に未来に伝えます。

重点目標 4-1	地域資料および古典籍の有効活用を図るとともに、大阪に関わる情報へのゲートウェイをめざして、データベースの拡充など、大阪のあらゆる分野に関する情報発信を強化します。				
評価 (25年度)	○	【評価の理由】 大阪文献データベースのデータ登録は計画通りに実施できた。特に、より精緻な検索に対応できるように、詳細な事項項目の追加を行った。 「デジタル大阪ポータル」(仮称)の実現に向けて、その核となる大阪文献データベースの機能強化案を作成した。今後はその案に基づき、具体的な仕様の作成を進めていく。			
重点指標		24年度末実績	目標	25年度末実績	進捗(□は中間結果)
大阪関係コンテンツアクセス数		427,912	毎年 430,000	456,583	
大阪文献データベース新規登録数		2,610	毎年 2,650	2,650	
【アクション・プラン】					
	取組み		達成状況		
平成25年度	(1)レファレンス事例公開・大阪文献データベースへのデータ登録の推進  (2)「デジタル大阪ポータル」(仮称)実現に向けた大阪文献データベースの機能強化の検討		(1)大阪文献データベースのデータ登録は計画どおり実施  (2)従来提供してきた「貴重書画像データベース」等の各種画像データベースを再構築し、「おおさかeコレクション」として運用開始。大阪文献データベースの機能強化について検討		
平成26年度	(1)大阪文献データベースの機能強化案に基づき大阪府立図書館のデータベースや他機関の大阪関係のデータベースの情報も収集する「デジタル大阪ポータル」(仮称)の仕様を作成				
平成27年度					
【アクション・プランのねらい】(25年度当初に記入)					
・レファレンス事例を積極的にインターネットで公開していくことにより、大阪在住の利用者にはもちろん、大阪在住以外の利用者にも、当館所蔵の資料の紹介や、大阪について調査する際の参考資料および調査方法を提示する。 ・大阪に関係する図書、地域誌、広報誌などで取り上げられた細かい事象に関する記事は、書名からの蔵書検索や、一般的な雑誌記事検索のデータベースでは調査することが困難である。大阪文献データベースにこれらの記事を登録し、データベースを充実させることにより、図書館利用者の調査の便宜を図る。 ・図書館情報システムのリプレイスを機に、大阪文献データベースの機能強化の検討を行い、大阪のことなら何でもわかる「デジタル大阪ポータル」(仮称)をめざした取組みを進める。					